

厚生労働科学研究費補助金  
女性の健康の包括的支援政策研究事業

女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に  
向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・  
目標の策定を推進するための研究

令和5年度 総括・分担研究報告書

補助事業者 甲賀かをり

令和6（2024）年 5月

I 総括研究報告 .....	1
● 女性の健康課題、特に月経困難症・月経前症候群の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究.....	2
II 分担研究報告 .....	6
● 女性のやせが及ぼす健康課題に関する疫学研究 日本人女性における妊娠前体重・BMIが周産期の転帰に及ぼす影響に関するシステマティックレビュー&メタ解析 .....	7
● 日本人女性における、BMIが無月経リスクに与える影響、および、女性の飲酒に係る要因についての疫学研究.....	11
● 別添1：アルコール関連の質問 .....	15
● 女性の若年時の体格と骨折リスクおよびやせの要因に係る疫学研究.....	16
● 別添1：調査項目一覧.....	19
● 女性におけるやせのリスクに対する教育の実態に関する研究.....	23
● 子宮内膜症の症状発症から診断までの期間に関する文献レビュー.....	26
● 女性の健康課題に関する疫学研究 日本人女性の月経困難症・月経前症候群の罹患率と受診率と情報源に関するアンケート調査.....	30
III. 研究成果の刊行に関する一覧表 .....	33

# I 総括研究報告

# 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業 統括研究報告書

## 女性の健康課題、特に月経困難症・月経前症候群の課題の解決に向けた 方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための 研究

研究代表者 甲賀かをり（千葉大学大学院医学研究院産婦人科）

### 研究要旨

令和6年開始予定の次期国民健康づくり運動プラン（以下「次期プラン」）では、女性特有の問題として「やせ」、また男性と比べ増加傾向にある「飲酒」について、項目立てがなされた。また月経困難症や、その原因となりさらに将来の生活習慣病とも関連する子宮内膜症・子宮筋腫等の女性特有の疾患については、疫学的・公衆衛生的エビデンスがなく、他の生活習慣病に関して行われているような指標・目標の策定・立案が行えず、「次期プラン」にも項目立てがない。

そこで、本研究では、女性のやせおよび飲酒についてそれぞれエビデンスを構築すること、さらに月経困難症等月経関連疾患の基礎資料を作成し、本疾患関連のあらたな健康課題の指標・目標策定の根拠となるようなエビデンスを創出すること、を、目的としている。

研究初年度は、女性の「やせ」の心理社会的要因について、ならびに学校教育の実態の調査を実施し、また、女性の「やせ」がもたらす周産期の転帰や、長期的な骨折リスクへの影響について分析する研究計画を立案した。

飲酒については、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

来年度も引き続き情報収集及び解析を継続し、女性のやせおよび飲酒、月経関連疾患についてそれぞれエビデンスを構築する。

## A. 研究目的

厚生労働省が生活習慣病やその原因となる生活習慣の改善等に関する課題について、国民健康づくり対策として開始した「21世紀における国民健康づくり運動」の、令和6年開始予定の次期国民健康づくり運動プラン（以下「次期プラン」）では、女性特有の問題として「やせ」、また男性と比べ増加傾向にある「飲酒」について、項目立てがなされた。しかし、それらがもたらす女性の身体への負の影響、ならびに、それらが起きている背景についてはエビデンスが少なく、課題解決に向けた具体的提言をすることができていない。また月経困難症や、その原因となりさらに将来の生活習慣病とも関連する子宮内膜症・子宮筋腫等の女性特有の疾患については、疫学的・公衆衛生学的エビデンスがなく、他の生活習慣病に関して行われているような指標・目標の策定・立案が行えず、「次期プラン」にも項目立てがない。

そこで、本研究では、女性のやせおよび飲酒、月経関連疾患についてそれぞれエビデンスを構築すること目的としている。

## B. 研究方法

### ①日本人女性における妊娠前体重・BMIが周産期の転帰に及ぼす影響に関するシステマティックレビュー&メタ解析（分担：小林しのぶ）

対象を日本人の単胎妊娠の女性、曝露を妊娠前BMIがやせ（BMI < 18.5）、メインアスウトカムを低出生体重児、SGA（small for gestational age）、早産児と設定し、妊娠前の体重が周産期の転帰に及ぼす影響について、システマティックレビュー・メタ解析の手法を用いて検討することとした。6つの

データベースを用い、網羅的に文献検索を実施した。

### ②日本人女性における、BMIが無月経リスクに与える影響、および、女性の飲酒に係る要因についての疫学研究（分担：森崎菜穂、瀧本秀美、池原賢代、中里道子）

BMIおよび月経ログが含まれている既存調査データの取得、および分析の開始（調査参加者の月経ログの収集状況の把握、BMI分布の把握）を行った。

また、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

### ③女性の若年時の体格と骨折リスクおよびやせの要因に係る疫学研究（分担：石塚一枝）

既存コホートを使用して20歳時の体格（やせ・肥満）による、生涯にわたる骨折リスクへの影響（身体部位別）の定量的な分析を行う研究計画の立案を行った。

また、孤独・SNSの使用状況を含む社会的状況がやせに関連する問題（ボディイメージなど）に与える影響についての定量的な分析を行うため、十代の児童に対して、孤独・SNSの使用状況や体格に関する調査を実施した。

### ④女性におけるやせのリスクに対する教育の実態に関する研究（分担：小川真里子、中里道子）

①日本国内で使用されている中学校および高等学校の保健体育の教科書を調査し、やせと健康リスクに関する記載を確認した。

②やせに関する教育について、国内外の文献レビューを行い、国内での試みや、国外で

の教育の状況について調査した。

⑤子宮内膜症の症状発症から診断までの期間に関する文献レビュー(分担:大須賀穰、平池修、谷口文紀、浦田陽子、甲賀かをり) 症状出現から子宮内膜症と診断されるまでの時間について、PubMed を用いてハンド・リサーチで網羅的に文献を検索した。

⑥日本人女性の月経困難症・月経前症候群の罹患率と受診率と情報源に関するアンケート調査(分担:甲賀かをり、石川博士、浦田陽子) マクロミル社を利用して、一般女性を対象とした月経に関する Web アンケート調査を行った。対象は18-49歳の女性とした。

### C. 研究結果

①日本人女性における妊娠前体重・BMI が周産期の転帰に及ぼす影響に関するシステマティックレビュー&メタ解析(分担:小林しのぶ)

文献検索の結果、MEDLINE から1054件、EMBASE から1428件、CINAHL から340件、PsycINFOから154件、Cochrane Library (Central)から77件、医学中央雑誌から1950件、合計5003件がヒットし、重複論文を除外し3960件がスクリーニング対象文献となった。

②日本人女性における、BMI が無月経リスクに与える影響、および、女性の飲酒に関する要因についての疫学研究(分担:森崎菜穂)

BMI および月経ログが含まれている既存調査データの取得、および分析の開始(調査参加者の月経ログの収集状況の把握、BMI 分布の把握)を行った。

また、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加

で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

③女性の若年時の体格と骨折リスクおよびやせの要因に係る疫学研究(分担:石塚一枝)

JPHC-NEXT コホートのデータを用いた、20歳時の体格(やせ・肥満)による、生涯にわたる骨折リスクへの影響(身体部位別)の定量的な分析を行う研究計画の立案を行った。

また、孤独・SNSの使用状況を含む社会的状況がやせに関連する問題(ボディイメージなど)に与える影響についての定量的な分析を行うため、十代の児童に対して、孤独・SNSの使用状況や体格に関する研究を実施し、こども1,928名、保護者1,991名から回答を得た。

④女性におけるやせのリスクに対する教育の実態に関する研究(分担:小川真里子、中里道子) ①保健体育教科書における記載については、適正体重についての記載はすべての教科書でなされていたが、“女性のやせ”に関する内容にはばらつきがみられた。②やせ、教育、リスクをキーワードとして文献検索を行った結果では、MEDLINE から75件、医学中央雑誌から57件が得られた。1次スクリーニングを行い、37件を検討対象とした。

⑤子宮内膜症の症状発症から診断までの期間に関する文献レビュー(分担:大須賀穰、平池修、谷口文紀、浦田陽子、甲賀かをり) 重複論文を除外し29編の論文が抽出された。初発症状から診断(手術による確定診断)までに要した時間は、国により様々であり、5-11年と幅があった。症状出現が若年

であるほど、診断までに要する時間は長くなることが複数報告されていた。

⑥日本人女性の月経困難症・月経前症候群の罹患率と受診率と情報源に関するアンケート調査(分担:甲賀かをり、石川博士、浦田陽子) 一次調査を40,000人の女性を対象にアンケート調査を行った。そのうち月経困難症あるいは月経前緊張症があり、病院を通院していない人(n=5356)を対象に二次調査を行った。約75%の女性は何らかの月経痛を自覚していた。月経痛のある女性のうち66%は医療機関受診したことがなかった。68%の女性が月経前緊張症を自覚しており、症状のある67%が医療機関受診をしたことがなかった。通院していない女性は受診に必要な支援として、経済的支援38%、病院についての情報提供23-26%、受診するための休暇制度18-19%、受診するための有給制度16-17%を挙げていた。

#### D. 考察

研究初年度は、女性の「やせ」の心理社会的要因についての調査を実施し、また、女性

の「やせ」がもたらす周産期の転帰や、長期的な骨折リスクへの影響について分析する研究計画を立案した。学校教育の状況は教育機関による差異が大きい可能性が示唆された。

飲酒については、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

月経については、医療システム、子宮内膜症や月経困難症に対する治療方針、文化は国ごとに異なり、日本での方策を考えるためには、日本独自の基礎資料が必要であることが明らかとなり、次年度の調査案の参考とした。

#### E. 結論

来年度も引き続き情報収集及び解析を継続し、女性のやせおよび飲酒、月経関連疾患についてそれぞれエビデンスを構築する。

# 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業

## 女性のやせが及ぼす健康課題に関する疫学研究 日本人女性における妊娠前体重・BMIが周産期の転帰に及ぼす影響に関する システマティックレビュー&メタ解析

研究分担者 小林 しのぶ (国立成育医療研究センター社会医学研究部)

研究協力者 糸井 しおり (国立成育医療研究センター社会医学研究部)

### 研究要旨

【目的】日本人女性における妊娠前体重・BMIが周産期の転帰に及ぼす影響およびリスク因子について、システマティックレビューおよびメタ解析にて明らかにすること。

【方法】対象を日本人の単胎妊娠の女性、曝露を妊娠前BMIがやせ (BMI <18.5)、メインアウトカムを低出生体重児、SGA (small for gestational age)、早産児と設定し、妊娠前の体重が周産期の転帰に及ぼす影響について、システマティックレビュー・メタ解析の手法を用いて検討することとした。6つのデータベースを用い、網羅的に文献検索を実施した。

【結果】文献検索の結果、MEDLINE から1054件、EMBASE から1428件、CINAHL から340件、PsycINFO から154件、Cochrane Library (Central) から77件、医学中央雑誌から1950件、合計5003件がヒットし、重複論文を除外し3960件がスクリーニング対象文献となった。

【結論】女性の「やせ」がもたらす、低出生体重児など周産期の転帰への影響に関するシステマティックレビューおよびメタ解析を実施している。系統的かつ定量的検証を行い、女性の健康課題への取り組みに資する成果に影響することを目指す。

### A. 研究目的

妊娠前の体重過多や肥満、妊娠中の体重増加は過多でも不十分でも妊娠の有害な転帰に関連しているといわれ、女性の健康課題として広く認知されている。一方で、女性のやせ、とくに若年層でのやせの増加が問題視されるようになったが、そのエビデンスについては不十分である。思春期から妊娠適齢年齢期における女性のやせは、妊孕性や周産期の転帰に影響が指摘されているにも関わらず、エビデンスが少なく、課題解決に向けた提言・施策ができていない。

日本では、コホート調査などの知見が複

数報告されているが、日本人における女性の妊娠前体重(やせ)と低出生体重児など周産期転帰に関わるリスクの関係性についての統合検証はされていない。日本人女性の妊娠前のやせが、周産期の転帰にどの程度の影響を及ぼすのか、標準体重や肥満女性に比べその影響に違いがあるのか、など詳細部分は不明である。女性の健康問題を論じ解決に向けた具体的提言を検討するうえで、エビデンスを整理することが必要であると考えられる。

そこで、本研究は妊娠前体重およびBMIが「やせ」である日本人女性における、低出



生体重児等の周産期の転帰に関する研究をシステマティックレビュー・メタ解析の手法を用いて明らかにすることを目的に実施した。

## B. 研究方法

本研究で行うシステマティックレビューおよびメタ解析は PRISMA 声明 ( Preferred Reporting Items for Systematic reviews and Meta-Analysis) <sup>23)</sup> に沿って実施し、PROSPERO ( International prospective register of systematic reviews) に登録した (登録番号: CRD42024524296)。本研究の目的に沿って、PECO ( Participant, Exposure, Comparison, Outcomes) を P: 日本人の単胎妊娠の女性、E: 妊娠前 BMI がやせ (BMI <18.5)、C: 妊娠前体重が標準であった妊婦、O: 低出生体重児、SGA (small for gestational age)、早産児、をメインアウトカムとして設定し、妊娠前の体重が周産期の転帰に及ぼす影響について、システマティックレビュー・メタ解析の手法を用いて検討することとした。文献検索について以下の通り実施した。

### 1. 採択論文の基準

論文の採用基準として、前項の PECO を満たしているものとした。

### 2. 文献検索

検索データベースには、MEDLINE, EMBASE, CINAHL, PsycINFO, Cochrane Library (Central)、医学中央雑誌を用い、2024年2月に検索を実施した。日本語・英語論文を対象とし、対象文献の研究デザインはコホート研究、ケース・コントロール研究とした。また、論文の種別につい

て、症例報告、会議録、学会抄録、総論・解説は除外した。

### 3. スクリーニングおよび分析方法

前項に挙げた採択基準をもとに文献検索を実施し、研究者2名で重複論文を除外する作業を実施した。

### 4. 今後のレビュー方法の計画策定

スクリーニング方法、採用論文からのデータ抽出、解析方法の検討し、レビュー計画を立案した。

(倫理面への配慮)

該当なし。

## C. 研究結果

### 1. 文献検索結果

文献検索を実施した結果、MEDLINE から 1054 件、EMBASE から 1428 件、CINAHL から 340 件、PsycINFO から 154 件、Cochrane Library (Central) から 77 件、医学中央雑誌から 1950 件、合計 5003 件が抽出された。そのうち、重複論文として、1043 件を除外し、3960 件がスクリーニング対象論文となった。

### 2. 今後のレビュー方法の計画策定

#### 1) スクリーニング

重複論文を除外した 3960 件の論文に対しタイトルおよび抄録をもとに第1段階のスクリーニングを実施する。次に第2段階のスクリーニングとして、第1段階で抽出した論文を対象にフルテキストをもとに独立した研究者2名でスクリーニングを実施する。研究者で判断の相違が生じた場合は、3人目の研究者を含め協議し採択論文の最終決定を行う。

#### 2) 集計・分析方法

採択論文から、研究者らで作成した研究情報シートを用いて各採択論文の研究期間、研究場所、研究デザイン、サンプルサイズ、方法論、参加者の特徴、転帰などの研究背景情報を抽出する。また同時にアウトカムデータの抽出を行う。アウトカムデータは、連続データと二分データ、効果測定値およびその95%信頼区間(CI)の抽出を計画している。異質性が高い場合やデータ欠損があり分析がRisk of bias アセスメントに関しては、non-RCT 研究やケース・コントロール研究に適したアセスメントスケールであるNOS (the Newcastle Ottawa Scale)を用いて評価する。

#### D. 考察

女性の「やせ」がもたらす健康課題の中でも、本研究では、低出生体重児など周産期の転帰に焦点を当てシステマティックレビューおよびメタ解析の手法を用いて検討することを計画した。令和5年度は、レビュー計画の立案、論文化に向けPROSPEROへの登録、文献検索までを実施した。思春期から妊娠適齢期における女性のやせは、その後の妊孕性や周産期の転帰に影響があるとされ<sup>4)</sup>、日本国内でもコホート調査等の報告がされている<sup>5)6)</sup>。しかしこれまで日本人女性に特化した妊娠前体重と低出生体重児などの周産期の転帰に関わるリスクの関係性について統合的に検証はされてこなかった。今回、システマティックレビューおよびメタ解析を行うことで、定量的かつ系統的に検証しエビデンスを明示することを目指す。今後の女性の健康課題の指標・目標の策定や次期プランへの働きかけに資する貴重な情報を提供できることが期待できる。

#### E. 結論

女性の「やせ」がもたらす、低出生体重児など周産期の転帰への影響に関するシステマティックレビューおよびメタ解析を実施している。系統的かつ定量的検証を行い、女性の健康課題への取り組みに資する成果を提供することを目指す。

#### 【参考文献】

- 1) LifeCycle Project-Maternal Obesity and Childhood Outcomes Study Group. Association of gestational weight gain with adverse maternal and infant outcomes. JAMA. 2019 May 7;321(17):1702-1715.
- 2) Page MJ, et al. PRISMA 2020 explanation and elaboration: updated guidance and exemplars for reporting systematic reviews. BMJ. 2021 Mar 29;372: n160.
- 3) 上岡洋晴、他。「PRISMA-S: システマティックレビューにおける文献検索報告のためのPRISMA 声明拡張」の解説と日本語訳. 薬理と治療 49 (7), 2021.
- 4) Han Z, Mulla S, Beyene J, Liao G, McDonald SD; Knowledge Synthesis Group. Maternal underweight and the risk of preterm birth and low birth weight: a systematic review and meta-analyses. Int J Epidemiol. 2011 Feb; 40(1):65-101.
- 5) Murai U, Nomura K, Kido M, Takeuchi T, Sugimoto M, Rahman M. Pre-pregnancy body mass index as a predictor of low-birth-weight infants

in Japan. Asia Pac J Clin Nutr. 2017  
May;26(3):434-437.

- 6) Nakanishi K, Saijo Y, Yoshioka E, Sato Y, Kato Y, Nagaya K, Takahashi S, Ito Y, Kobayashi S, Miyashita C, Ikeda-Araki A, Kishi R; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Severity of low pre-pregnancy body mass index and perinatal outcomes: the Japan Environment and Children's Study. BMC Pregnancy Childbirth. 2022 Feb 11;22(1):121.

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

令和5年度厚生労働科学研究費補助金  
(女性の健康の包括的支援政策研究事業)  
分担報告書

日本人女性における、BMIが無月経リスクに与える影響、および、  
女性の飲酒に関する要因についての疫学研究

研究分担者 森崎 菜穂 (国立成育医療研究センター社会医学研究部)  
瀧本 秀美 (国立医薬基盤・健康・栄養研究所)  
池原 賢代 (大阪大学大学院医学系研究科)  
中里 道子 (国際医療福祉大学医学部)

研究協力者 糸井 しおり (国立成育医療研究センター社会医学研究部)  
Aurelie Piedvache (国立成育医療研究センター社会医学研究部)

研究要旨

【目的】本研究は、日本人において①BMIが無月経に与える影響 ②女性の飲酒に関する要因を調べることを目的としている。研究初年度である令和5年度は、①においてはデータの取得と分析の開始、②については飲酒に関する情報を取得している既存コホートの調査を行うことを目的とした。

【方法】①BMIおよび月経ログが含まれている既存調査データの取得、および分析の開始(調査参加者の月経ログの収集状況の把握、BMI分布の把握)を行った。②女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景を調査しているあるいは追加で調査することができる日本人女性の大規模コホートに関する情報を収集し、整理した。

【結果】①「やせ」も「肥満」も約7~8人に1人に見られることがわかった。②2020年以降に実施された調査が複数あり、調査項目も飲酒の摂取量や頻度のみならず、アルコール依存に関連する尺度も取得がされていることが把握された。

【結論】無月経情報が把握できる既存疫学調査でやせの頻度が十分であり、今後やせと無月経頻度との関連を調べるに足るサンプル数であること、また近年実施された疫学調査に飲酒に関する項目が含まれている調査が複数あることが同定できた。

A. 研究目的

国民健康づくり対策として開始された「21世紀における国民健康づくり運動」の、令和6年度からの「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動(健康日本21(第三次))」では、女性特有の問題として「やせ」、また男性と比べ増加傾向にある「飲酒」につい

て、項目立てがなされた。

しかし、それらがもたらす女性の身体への負の影響、ならびに、それらが起きている背景についてはエビデンスが少なく、課題解決に向けた具体的提言をすることができていない。

そこで、本研究は、日本人において、①

BMIが無月経に与える影響 ②女性の飲酒  
に  
関係する要因を調べることを目的に実施  
した。

特に研究初年度である令和5年度は、①  
においてはデータの取得と分析の開始、②  
については飲酒に関する情報を取得してい  
る既存コホートの調査を行うことを目的と  
した。

## B. 研究方法

### ①BMIが無月経に与える影響

本研究は、研究者らが別財源（日本医療研  
究開発機構（AMED）「プレコンセプション  
の女性に着目した疾患予防に関する総合的  
ケア方法の確立」）で実施した調査（「ルナ  
ルナ」を用いた女性のリプロダクティブヘル  
スとこころの健康及び社会的リスク要因  
に関する研究」）の調査参加者約2万名のデ  
ータを用いた、二次分析研究である。

今年度は、当該データの取得、および分析  
の開始（調査参加者の月経ログの収集状況  
の把握、BMI分布の把握）を行った。

### ②女性の飲酒に関連する要因分析

本研究は、女性の飲酒量および飲酒頻度、  
および社会的背景（経済状況、労働状況、心  
理的状況など）を含むコホート情報を分析  
し、飲酒量および頻度に影響を与える社会  
背景因子を調べる疫学研究である。

今年度は、女性の飲酒量および飲酒頻度、  
および社会的背景を調査しているあるいは  
追加で調査することができる日本人女性の  
大規模コホートに関する情報を収集し、整  
理した。

（倫理面への配慮）

本研究にて利用する情報はいずれも個人を

特定できる情報（氏名等）は含まないが、既  
存データの個票データを入力し二次分析を  
行うにあたり、国立成育医療研究センター  
の倫理委員会にて承認を得た。

## C. 研究結果

### ①BMIが無月経に与える影響

「ルナルナ」を用いた女性のリプロダク  
ティブヘルスとこころの健康及び社会的リ  
スク要因に関する研究」で実施した調査の  
調査参加者は24,155名であり、うち月経開  
始日の入力3回未満であった参加者（304  
名）、全ての月経周期が全周期の分布から見  
て $\pm 4SD$ 外にある参加者（0名）、妊娠・不  
妊治療中あるいはピル・子宮内避妊器具を  
使っている者（2,124名）、身長・体重情報  
がなくBMIを算出できない者（1,426名）を  
除いた20,065名を解析対象とした。

BMIの分布は表1のとおりであった。

BMI $<18.5\text{kg/m}^2$ の「やせ」は13.2%に見ら  
れ、BMI $\geq 25\text{kg/m}^2$ の「肥満」（14.5%）と  
ほぼ同等の頻度で見られることがわかった。

表1

BMI ( $\text{kg/m}^2$ )	人数 (%)
BMI $<15$	28 (0.1%)
$15 \leq \text{BMI} < 18.5$	2,654 (13.2%)
$18.5 \leq \text{BMI} < 23$	11,649 (58.0%)
$23 \leq \text{BMI} < 25$	2,592 (12.9%)
$25 \leq \text{BMI} < 35$	2,914 (14.5%)
$35 \leq \text{BMI}$	228 (1.3%)

### ②女性の飲酒に関連する要因分析

国内で近年実施されてきた、女性の飲酒量および飲酒頻度、および社会的背景(経済状況、労働状況、心理的状况など)の情報を収集している2020年以降に実施された大規模調査として、以下を同定した。

・ The Japan Society and New Tobacco Internet Survey (JACTIS) 2021-2024

(※調査対象はインターネット調査会社のパネルメンバーである全国の16-79歳の男女)

・ The Japan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS) 2021-2023

(※調査対象はインターネット調査会社のパネルメンバーである全国の16-79歳の男女)

・ JACSIS 妊産婦調査 2020-2022

(※調査対象はインターネット調査会社のパネルメンバーであり、妊娠中あるいは2歳未満の子供がいる女性)

・ 「ルナルナ」を用いた女性のリプロダクティブヘルスとこころの健康及び社会的リスク要因に関する研究

(※調査対象は月経管理アプリ「ルナルナ」のユーザー約2万人)

また、飲酒について、以下のような調査項目が取得されていることを同定した。

・ 摂取頻度

・ 1日の摂取量(日本酒換算、あるいはアルコール量換算)

・ アルコール依存症スクリーニングテスト(10問: AUDIT) 1)

・ アルコール依存症スクリーニングテスト(4問: CAGE) 2)

別添1に各調査において実施された調査項目のマッピングを記載する。

## D. 考察

本研究では、日本人においてBMIが無月経に与える影響(①)、女性の飲酒に関する要因(②)を調べるために、データの整理を分析の開始を主に行った。

アプリユーザーにおいて実施した調査の分析(①)からは、「やせ」も「肥満」も約7~8人に1人に見られることがわかった。今後、継続した分析を行い、やせと無月経との関連を明らかにする予定である。

また、女性の飲酒においては、2020年以降に実施された調査が複数あること、また飲酒の摂取量や頻度のみならず、アルコール依存に関連する尺度も取得がされていることが把握された。

今年度把握できた既存の調査から、分析に使用するデータを選定して、女性の飲酒に関する要因を分析する予定である。

## E. 結論

無月経情報が把握できる既存疫学調査でやせの頻度が十分であり、今後やせと無月経頻度との関連を調べるに足るサンプル数であること、また近年実施された疫学調査に飲酒に関する項目が含まれている調査が複数あることが同定できた。

今後これらのデータの定量的検証により、やせが無月経に与える影響、女性の飲酒に関する要因、等の女性の健康課題への取り組みに資する成果を提供することを目指す。

## 【参考文献】

1. Babor TF, Fuente DL Jr, Saunders JB et al : AUDIT: The Alcohol Use

Disorder Identification Test:Guidance  
for Use in Primary Health Care. WHO,  
1992

2. Ewing JA. Detecting alcoholism. The  
CAGE questionnaire. JAMA. 1984 Oct  
12;252(14):1905-7.

**F. 研究発表**

**1. 論文発表**

なし

**2. 学会発表**

なし

**G. 知的財産権の出願・登録状況**

なし

**1. 特許取得**

なし

**2. 実用新案登録**

なし

**3. その他**

なし

## 別添1：アルコール関連の質問

アルコール関連の質問	JASTIS 2024	JACSIS 2023	JASTIS 2023	JACSIS 2022	JASTIS 2022	JACSIS 2021	JASTIS 2021
摂取頻度	Q10		Q11		Q45		Q41
1日の摂取量(日本酒換算)	Q11	Q83	Q12	Q73		Q69	
アルコール、薬物使用歴(頻度*)	Q44	Q82	Q42	Q72	Q44	Q67	Q39
1日の摂取量 (g)	Q45		Q43				
AUDIT	Q47-50		Q45-48		Q45-48		Q42-44
アルコール依存家族歴	Q51-52		Q49				
CAGE	Q90		Q85		Q83		

アルコール関連の質問	妊産婦調査2022	妊産婦調査2021	妊産婦調査2020
摂取頻度			
1日の摂取量(日本酒換算)			
アルコール、薬物使用歴(頻度*)	Q52		Q55
1日の摂取量 (g)			
AUDIT			
アルコール依存家族歴			
CAGE			

	ルナルナ
摂取頻度	Wave 2, 5
1日の摂取量 (g)	Wave 2, 5
摂取量の増減について(2020/01と比較して)	Wave 2, Wave6
摂取量の増減について(2020/09と比較して)	Wave 5
パートナーの摂取頻度	Wave 2, 5
パートナーの1日の摂取量	Wave 2, 5
パートナー摂取量の増減について(2020/01と比較して)	Wave 2, Wave6
パートナー摂取量の増減について(2020/09と比較して)	Wave 5

### 注釈)

- ・ JACTIS: The Japan Society and New Tobacco Internet Survey (JACTIS) 2021-2024 (※調査対象はインターネット調査会社のパネルメンバーである全国の16-79歳の男女)
- ・ JACSIS: The Japan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS) 2021-2023 (※調査対象はインターネット調査会社のパネルメンバーである全国の16-79歳の男女)
- ・ 妊産婦調査: JACSIS 妊産婦調査 2020-2022 (※調査対象はインターネット調査会社のパネルメンバーであり、妊娠中あるいは2歳未満の子供がいる女性)
- ・ 「ルナルナ」を用いた女性のリプロダクティブヘルスとこころの健康及び社会的リスク要因に関する研究」(※調査対象は月経管理アプリ「ルナルナ」のユーザー約2万人)



## 女性の若年時の体格と骨折リスクおよびやせの要因に係る疫学研究

研究分担者 石塚一枝（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

森崎菜穂（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

研究協力者 寺島智美（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

廣田尚紀（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

### 研究概要

本研究では、「①20歳時体格とその後の生涯における骨折リスクへの影響」を調べる。更に、「②女性の「やせ」の要因」を明らかにすることで、「やせ」を減らすべき根拠ならびに指標を示すことを目的としている。

既存コホートを使用して20歳時の体格（やせ・肥満）による、生涯にわたる骨折リスクへの影響（身体部位別）の定量的な分析を行う研究計画の立案を行った。また、孤独・SNSの使用状況を含む社会的状況がやせに関連する問題（ボディイメージなど）に与える影響についての定量的な分析を行うため、十代の児童に対して、孤独・SNSの使用状況や体格に関する研究を実施し、こども1,928名、保護者1,991名から回答を得た。

詳細な分析は令和6-7年度に行う予定である。

### A. 研究目的

女性は、性ホルモンに関連した毎月の生理的変動、妊娠出産というライフイベントを経験することから、男性と異なる健康問題が生じ、性特有の健康課題がある。厚生労働省「21世紀における国民健康づくり運動」の、令和6年開始予定の次期国民健康づくり運動プラン（以下「次期プラン」）では、女性特有の問題として「やせ」、また男性と比べ増加傾向にある「飲酒」について、項目立てがなされた。しかし、それらがもたらす女性の身体への負の影響、ならびに、それらが起きている背景についてはエビデンスが少なく、課題解決に向けた具体的提言をすることができていない。

海外の報告において若年時の女性のやせは生涯における骨折リスクが増加すると考えられている[Kim JG 23(1):948.]。骨密度は

若年時に上昇し、特に女性においては閉経後に内分泌動態の経年的変化などによって骨密度が低下していく。そのため、若年期に骨粗鬆症予防のために可能な限り高い最大骨量を獲得する必要があるとされる[骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン 2015年版, p44, ライフサイエンス出版, 2015]。本邦においても若年時の女性のやせと加齢に伴う骨密度の低下の関連も報告されているが、対象者数が少なく、地域性が限定されている[Turcotte AF 16(6):]。

同様に肥満と骨折のリスク因子についても全てが明確にはなっていないが、肥満によるインスリン抵抗性の増加、炎症性サイトカインの増加、骨代謝ホルモンの体内動態の変化などの代謝生涯などによる骨の脆弱性が惹起されている可能性があると考えられる<sup>1</sup> [Turcotte AF 16(6):]。一方で肥満者の

骨折の発症リスクは部位による差異があり、股関節・脊椎・手首などは発生率が低く、足首・大腿骨・上腕骨などは増加するとする報告もある[Rinonapoli]が若年時の肥満と骨折についての本邦における報告は乏しい。

そこで、本研究では、20歳時の体格とその後の生涯における骨折リスクへの影響を解明する。

更に、生涯骨折の要因になるとも考えられる女性の「やせ」の要因を明らかにすることで、「やせ」を減らすべき根拠ならびに指標を示すために調査を実施する。

## B. 研究方法

### B-1.20歳時体格とその後の生涯における骨折リスクへの影響

#### (1)研究参加者

- ・ データ収集方法：質問票調査
- ・ 対象：地域住民から生活習慣や健康に関する情報を提供していただき、長期追跡を行っている多目的コホート調査（JPHC-NEXT）に参加している成人（約10万人）。

#### (2)分析方法

20歳時の体格（やせ・肥満）による、生涯にわたる骨折リスクへの影響（身体部位別）を定量的に分析する。

- ・ 既存コホート[日本各地に居住する約10万人の生活習慣および20年以上の長期にわたって疾病の発症に関する追跡]を使用。その際、既往歴や治療歴、手術歴、生活習慣歴等を変数として調節を行う。

### B-2.女性の「やせ」の要因

#### (1)研究参加者

- ・ データ収集方法：質問票調査

・対象：十代児童への全国コホート：層化二段無作為抽出法により、全国50自治体から選ばれた小学5年生～中学2年生の子どもおよびその保護者。

#### (1) 調査項目

日本人女性のやせの要因となりうる要因（孤独、ソーシャルメディアなど）を同定するため、孤独・SNSの使用状況や日本人やせの課題であるボディイメージの異常に関する調査項目を含めた。（表1-3参照）

データ分析は令和6年度に実施予定である。

（倫理面への配慮）本研究は、国立成育医療研究センターの倫理委員会での承認を得ている。

## C. 研究結果

### B-1.20歳時体格とその後の生涯における骨折

今年度はデータ受領と研究計画の立案を行った。

### B-2.女性の「やせ」の要因

子ども1,928名、保護者1,991名から回答を得た。

## D. 考察

本研究は、研究期間が複数年（令和6年度まで）にわたり、本年度はその研究計画期間であったため、令和6年度に実施する研究の結果を記述する予定である。このため、考察についても令和6年度に調査・分析結果をとりまとめて考察を行う予定である。

#### 【参考文献】

- Kim JGJY, Park J, et al. Risk of fracture according to temporal changes of low body weight changes in adults over 40 years: a nationwide population-based cohort study. BMC Public Health 2023Hong, 23(1):948.
- 骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン 2015年版, p44, ライフサイエンス出版, 2015 編・著 : 骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン作成委員会.
- Turcotte AFS, Morin SN, et al. Association between obesity and risk of fracture, bone mineral density and bone quality in adults: A systematic review and meta-analysis. PLoS One 2021O'Connor, 16(6):.
- Rinonapoli Pace, V., Ruggiero, C., Ceccarini, P., Bisaccia, M., Meccariello, L., & Caraffa, A. (2021). Obesity and Bone: A Complex Relationship. International Journal of Molecular Sciences, 22(24), 13662.G.
- Tatsumi YA, Kubota Y, et al. Underweight young women without later weight gain are at high risk for osteopenia after midlife: The KOBE Study. J Epidemiol 2016Higashiyama, 572–8.26:.
- 骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン 2015年版, p18, ライフサイエンス出版, 2015 編・著 : 骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン作成委員会.

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

## 別添 2 : 調査項目一覧

表 1 孤独に関する質問項目

質問：それぞれの項目について、あなたはどのくらいの頻度で感じているかお答えください。

選択肢： ①決してない ②ほとんどない ③時々ある ④常にある

- (1) 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか
- (2) 自分は取り残されていると感じることがありますか
- (3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることはありますか

表 2 SNS の使用状況に関する質問項目

質問：あなたはインターネットで次のことをしますか？（あてはまるもの全てに○）

- (1) SNS で他の人が書いた記事を閲覧する
- (2) SNS でメッセージをやりとりをする
- (3) 動画をみた後にコメントをする
- (4) 動画を作成してインターネットに掲載する
- (5) ゲームをする
- (6) その他

質問：あなたのインターネットを利用する時間は1日あたり平均でどれくらいですか？

- (1) 1週間全体の平均

選択肢： ① 1時間以上 2時間未満  
② 1時間以上 2時間未満  
③ 2時間以上 3時間未満  
④ 3時間以上 4時間未満  
⑤ 4時間以上 5時間未満  
⑥ 5時間以上

- (2) 平日の平均

選択肢： ① 1時間以上 2時間未満  
② 1時間以上 2時間未満  
③ 2時間以上 3時間未満

- ④ 3時間以上4時間未満
- ⑤ 4時間以上5時間未満
- ⑥ 5時間以上

(3) 休日の平均

- 選択肢： ① 1時間以上2時間未満
- ② 1時間以上2時間未満
  - ③ 2時間以上3時間未満
  - ④ 3時間以上4時間未満
  - ⑤ 4時間以上5時間未満
  - ⑥ 5時間以上

表 3 体格に関する質問項目

質問：下記の文章を読み、最も適切な番号をお答えください

- 選択肢：①全くそう思わない
- ②あまりそう思わない
  - ③どちらとも言えない
  - ④ややそう思う
  - ⑤とてもそう思う

<男性向け設問>

- (1) 私にとって筋肉がついているように見えることは大切だ
- (2) 自分の体をとて細く見せたい
- (3) 筋肉がついているようにみえることについていろいろと考える
- (4) やせてみえることについていろいろと考える
- (5) 筋肉がついているようにみせたい
- (6) 自分の外見についてあまり考えていない自分がどうみえるかはあまり考えない
- (7) とても筋肉がついているようにみえる体になりたい
- (8) 家族からやせてみえないといけなく感じる
- (9) 家族から外見をよくしないとダメと感じる
- (10) 家族から良い体系になるようすすめられる
- (11) 家族から筋肉がついていないといけなく感じる
- (12) 家族から筋肉を大きくし、筋力を上げるようすすめられる
- (13) 同級生から自分の外見をよくしないとダメと感じる

- (14) 同級生から筋肉を大きくし、筋力を上げるよう勧められる
- (15) 同級生から筋肉がついていないといけないと感じる
- (16) 同級生から筋肉を大きくし、筋力を上げるようすすめられる
- (17) 大切な人から自分の外見をよくしないといけないと感じる
- (18) 大切な人から筋肉を大きくし、筋力を上げるよう勧められる
- (19) 大切な人から筋肉がついていないといけないと感じる
- (20) 大切な人から筋肉を大きくし、筋力を上げないといけないと感じる
- (21) メディアをみると、良い体型にみえないといけないと感じる
- (22) メディアをみるとやせてみえないといけないと感じる
- (23) メディアをみると自分の外見をよくしないといけないと感じる
- (24) メディアをみると筋肉を大きくし、筋力を上げるよう勧められる
- (25) メディアをみると筋肉がついていないといけないと感じる
- (26) メディアをみると筋肉を大きくし、筋力を上げないといけないと感じる

<女性向け設問>

- (1) 私にとって筋肉がついているように見えることは大切だ
- (2) 私にとっていけている服装にすることは大切だ
- (3) 自分の体をととても細く見せたい
- (4) 筋肉がついているようにみえることについていろいろと考える
- (5) 自分の外見についていろいろと考える
- (6) やせてみえることについていろいろと考える
- (7) 良い見た目でありたい
- (8) 筋肉がついているようにみせたい
- (9) 自分の外見についてあまり考えていない
- (10) 筋肉がついているようにみえてほしくない
- (11) 脂肪が少なくひきしまった体にみせたい
- (12) 私にとってすてきにみえることは大切だ
- (13) もし体の脂肪がほとんどなかったらどうだろうといろいろ考える
- (14) 自分がどうみえるかはあまり考えない
- (15) とても筋肉がついているようにみえる体になりたい
- (16) 家族からやせてみえないといけないと感じる
- (17) 家族から自分の外見をよくしないといけないと感じる
- (18) 家族から良い体系になるようすすめられる
- (19) 同家族から体の脂肪をへらすようすすめられた

- (20) 家族から良い体型になるようすすめられる
- (21) 同級生からやせてみえないといけないと感じる
- (22) 同級生から自分の外見をよくしないといけないと感じる
- (23) 同級生から良い体系になるようすすめられる
- (24) 同級生から体の脂肪をへらすようプレッシャーを受けている
- (25) 大切な人からやせるようすすめられる大切な人から自分の外見をよくしないといけないと感じる
- (26) 大切な人から自分の外見をよくしないといけないと感じる
- (27) 大切な人から良い体型にみえないといけないと感じる
- (28) 大切な人から体の脂肪をへらすようにプレッシャーを受けている
- (29) メディアをみると、良い体型にみえないといけないと感じる
- (30) メディアをみるとやせてみえないといけないと感じる
- (31) メディアをみると自分の外見をよくしないといけないと感じる
- (32) メディアをみると体の脂肪を減らさないといけないと感じる

# 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業

## 女性におけるやせのリスクに対する教育の実態に関する研究

研究分担者 小川真里子（福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター）

研究協力者 中里 道子（国際医療福祉大学 医学部精神医学）

### 研究要旨

【目的】学校現場を中心とした、やせとそのリスクに関する教育の実態を明らかにする。

【方法】①日本国内で使用されている中学校および高等学校の保健体育の教科書を調査し、やせと健康リスクに関する記載を確認した。②やせに関する教育について、国内外の文献レビューを行い、国内での試みや、国外での教育の状況について調査した。

【結果】①保健体育教科書における記載については、適正体重についての記載はすべての教科書でなされていたが、“女性のやせ”に関する内容にはばらつきがみられた。②やせ、教育、リスクをキーワードとして文献検索を行った結果では、MEDLINE から 75 件、医学中央雑誌から 57 件が得られた。1 次スクリーニングを行い、37 件を検討対象とした。

【結論】保健体育教科書の記載内容にはばらつきがあり、学校教育における“やせとそのリスク”についての教育の状況には、教育機関による差異が大きい可能性が示唆された。今後、文献レビューをすすめ、さらに詳細を明らかにするとともに、若年女性を対象とした“やせによるリスクに関する知識”についてのアンケート調査を行い、実態を明らかにする予定である。

### A. 研究目的

女性における若年期のやせは、将来的な骨粗鬆症および骨折リスクに加え、神経性やせ症を含む摂食障害、糖尿病、貧血、月経異常、不妊症、さらには次世代の生活習慣病リスクといった、様々なリスクをもたらすことが明らかになっている<sup>1)</sup>。一方、これらのリスクについて、当事者である若年女性が知識を有しているのか、さらに知る機会が十分に提供されているかについては、検討がなされていない。

青年に様々な知識を得る主な場所は学校であり、学校教育で行われるべき内容は学習指導要領に記載されている<sup>2)</sup>。例えば高等学校学習指導要領では、生活習慣病など

の予防と回復のために、運動、食事、休養および睡眠の調和の取れた生活が必要と記されており、さらに令和3年度からは、精神疾患のひとつとして、摂食障害についても触れることが定められている。

しかし、実際に学校でどのような教育が行われているかは調べられていない。また、やせのリスクについてどのような教育が行動変容につながるかについてはあまり検討されていないため、エビデンスを整理する必要がある。さらに、当事者である若年女性が、やせとそのリスクについてどのような知識を有しているか、どのようにその知識を得たかについては検討されていない。

そこで、令和5年度は、まず学校教育の



状況を知るために、用いられている教科書を調査し、さらに、やせのリスクと教育に関する文献レビューを行うこととした。

## B. 研究方法

### ① 保健体育教科書における“やせと健康リスク”の記載調査

やせと健康リスクに関する学校教育の実態について調査するため、東京都江東区の教科書図書館に貯蔵されている、現行の中学・高等学校向けの保健体育教科書（中学校 4 編、高等学校 5 編）を調査した。

### ② やせと教育に関する文献レビュー

「やせ、教育、リスク」および「体型不満、教育」をキーワードとして文献検索を行った。文献検索は外部委託した。

（倫理面への配慮）

本研究の倫理的配慮の必要性については、東京歯科大学市川総合病院倫理審査委員会において、付議不要の判断であった(I 23-67)。

## C. 研究結果

### ① 保健体育教科書における“やせと健康リスク”の記載調査

教科書図書館に貯蔵されている、現行の中学・高等学校向けの保健体育教科書を調査した。

中学校向け教科書では、体型に関しては、食事と健康、適正体重について示されており、教科書による差はあるものの、やせの問題についても記載されているものがあつた。やせのリスクとしては、摂食障害に言及しているものが 1 冊、骨粗鬆症に言及してい

るものが 1 冊であつた。高等学校向け教科書においては、令和 4 年に発行された教科書には、過度のダイエットにまつわる危険が記載され、摂食障害についても精神疾患のひとつとして言及されていた。しかし、なぜ過度なダイエットが問題なのかについての記載はまちまちであつた。

以上から、適正体重についての記載はすべての教科書でなされていたが、“女性のやせ”に関する内容にはばらつきがみられた。また、令和 3 年より学習指導要領において、高等学校で摂食障害について触れることが定められているが、令和 4 年以降に発刊された保健体育教科書での摂食障害の取扱いは、教科書により違いがみられた。

### ② やせと教育に関する文献レビュー

文献検索では、MEDLINE から 75 件、医学中央雑誌から 57 件が得られた。1 次スクリーニングを行い、37 件をレビュー対象とした。

現在論文を精査中であるが、得られた論文の多くは、やせに関する教育プログラムを作成し、これについての比較的短期的な効果を検討しているものであつた。

今後、論文の精査結果について論文報告を予定している。

## D. 考察

中学校・高等学校の保健体育教科書において、適正体重についての記載はすべての教科書でなされていたが、“女性のやせ”に関する内容にはばらつきがみられた。また、令和 3 年より学習指導要領において、高等学校で摂食障害について触れることが定められているが、令和 4 年以降に発刊された保健体育教科書での摂食障害の取扱いは、

教科書により違いがみられた。この結果から、学校現場における“女性のやせとそのリスク”に関する教育には、ばらつきが大きい可能性が高いと考えられた。

やせと教育に関し、これまで行われた研究は、現在精査中ではあるが、やせについての教育プログラムとその短期的影響について論じているものが多かった。すなわち、特殊なプログラムを構築したうえで、摂食障害の予防効果を検証する検討が殆どであり、授業時間の限られた日本の学校教育に落とし込むことは困難である可能性が高いと考えられる。

今後、若年女性のやせとそのリスクに関する知識についてのアンケート調査を行うことで、実際にどのような方法でこれを伝えることが効果的かを検証することが期待されると思われた。

## E. 結論

女性のやせについて、学校で行われている教育内容はばらつきが大きい可能性があり、また一般の教育における効果は検討されていないことが明らかになった。

令和6年度は、文献レビューをすすめるとともに、これらの結果を踏まえ、若年女性を対象とした、やせとそのリスクに関する知識および、知識を得た方法についてのアンケート調査を行う予定である。

### 【参考文献】

- 1) Kodama H Problems of underweight in young females and pregnant women in Japan. Japan Med Assoc J. 2010 53:285–289
- 2) 平成 29・30・31 年改訂学習指導要領

(本文、解説)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

# 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業

## 子宮内膜症の症状発症から診断までの期間に関する文献レビュー

研究分担者 大須賀 穰（東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座）

研究分担者 平池 修（東京大学大学院医学系研究科産婦人科学講座）

研究分担者 谷口 文紀（鳥取大学##）

研究分担者 浦田 陽子（国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター不妊診療科）

### 研究要旨

【目的】子宮内膜症の診断までの時間について文献的に調査し、日本での「月経関連疾患」の基礎資料を調査するにあたっての問題点を明らかにする。

【方法】症状出現から子宮内膜症と診断されるまでの時間について、PubMedを用いてハンド・リサーチで網羅的に文献を検索した。

【結果】文献検索の結果、重複論文を除外し29編の論文が抽出された。初発症状から診断（手術による確定診断）までに要した時間は、国により様々であり、5-11年と幅があった。症状出現が若年であるほど、診断までに要する時間は長くなることが複数報告されていた。

【結論】医療システム、子宮内膜症や月経困難症に対する治療方針、文化は国ごとに異なる。日本での方策を考えるためには、日本独自の基礎資料が必要である。

### A. 研究目的

月経困難症や、その原因となりさらに将来の生活習慣病とも関連する子宮内膜症・子宮筋腫等の女性特有の疾患については、疫学的・公衆衛生学的エビデンスがなく、他の生活習慣病に関して行われているような指標・目標の策定・立案が行えず、「次期プラン」にも項目立てがない。

本疾患関連のあらたな健康課題の指標・目標を策定するには、「月経関連疾患」の基礎資料（潜在患者数、受診率、有症状者における有病率、受診者の発症から受診までの期間、受診医療機関数、通院継続率等）を明らかにする必要がある。

本研究では、これらを明らかにするためにアンケート調査を行う予定であるが、ま

ずは既報の知見をまとめアンケート内容を決定する必要がある。本年度は、アンケート内容を決定するために、文献レビューにより既報の知見をまとめることが目的である。

### B. 研究方法

本研究での文献検索は、PubMedを用いてハンド・リサーチで行った。（2023年11月29日）

検索式①「"diagnosis delay" or "diagnostic delay" "endometriosis"」および検索式②「"time to diagnosis" "endometriosis"」で行い、全文確認できる英語論文のみを対象とした。また、論文の種類について、症例報告、会議録、学会抄録、総論・解説は除外した。

スクリーニングは単独（浦田）で行い、重複論文を除外した。

（倫理面への配慮）該当なし

## C. 研究結果

検索式①では86編の検索結果あり、そのうちClinical Trial 0編、meta-analysis 1編、Randomized Controlled Trialは0編であった。

検索式②では27編の検索結果あり、そのうちClinical Trial 0編、meta-analysis 0編、Randomized Controlled Trialは0編であった。

重複論文を除外したのちに、本研究と関連する文献をタイトルとabstractで判断し29編の論文を抽出し、全文を確認した。

1. 子宮内膜症の診断の遅れを評価する指標として、診断までに要した時間（Time to diagnosis (TTD)）がある。多くは初発症状から診断までの時間が報告されており、それ以外にも、初発症状出現から医療機関初回受診までの時間、医療機関初回受診から診断までに要した時間など、さまざまな時間の比較がされている。
2. 初発症状から診断（手術による確定診断）までに要した時間は、国により様々であり、5-11年と幅がある（表1）1）~10）。また、ガイドラインの発刊時期を考慮した、診断時期別のTTDについて報告があり、ガイドラインの影響でTTDが短縮していると考えられる（表2）2）11）。
3. 患者が専門医（婦人科医）に受診するのにgeneral practitioner (GP)からの紹介が必須となる国がある。その場合、GPへの啓蒙が重要となる。
4. 若年層では症状や子宮内膜症の重症度といった臨床像は異なっている。症状出現が若年であるほど、診断までに要する時間は長くなる（1),9),12）。

## D. 考察

### 1. 診断の定義

子宮内膜症の確定診断には手術を要するが、悪性を疑わない場合には、現状日本では診断のみを目的として手術は行わない。このため症状、内診所見、画像所見による臨床診断に基づき、ホルモン治療が行われる。既報のほとんどは、手術による確定診断までの時間を検討していたため、日本の臨床の実態には当てはまらない。

### 2. どの期間を評価するか

子宮内膜症に対するホルモン治療は機能性月経困難症にも有効である。子宮内膜症の診断（確定診断あるいは臨床診断）に至る前に、機能性月経困難症あるいは器質性月経困難症疑い（子宮内膜症疑い）でホルモン治療開始になっている場合もある。診断だけでなく治療も女性にインパクトをあたえるため、診断までの時間（Time to diagnosis）だけでなく治療開始までの時間（Time to treatment）も重要だと考えられる。

### 3. 医療システムの違い

婦人科受診するのにGPからの紹介が必須な国の知見を日本に当てはめることは不適當である。

## E. 結論

医療システム、治療方針、文化は国ごとに異なる。日本での方策を考えるためには、日本独自の基礎資料が必要である。

### 【参考文献】

1) Pino I, et al. "Better late than never but never late is better", especially in young women. A multicenter Italian study on diagnostic delay for symptomatic endometriosis. Eur J Contracept Reprod Health Care. 2023;28(1):10-6.

2) Tewhaiti-Smith J, et al. An Aotearoa New Zealand survey of the impact and diagnostic delay for endometriosis and chronic pelvic pain. *Sci Rep.* 2022;12(1):4425.

3) Mousa M, et al. Impact of Endometriosis in Women of Arab Ancestry on: Health-Related Quality of Life, Work Productivity, and Diagnostic Delay. *Front Glob Womens Health.* 2021;2:708410.

4) Singh S, et al. Prevalence, Symptomatic Burden, and Diagnosis of Endometriosis in Canada: Cross-Sectional Survey of 30 000 Women. *J Obstet Gynaecol Can.* 2020;42(7):829-38.

5) Ghai V, et al. Diagnostic delay for superficial and deep endometriosis in the United Kingdom. *J Obstet Gynaecol.* 2020;40(1):83-9.

6) Staal AH, et al. Diagnostic Delay of Endometriosis in the Netherlands. *Gynecol Obstet Invest.* 2016;81(4):321-4.

7) Hudelist G, et al. Diagnostic delay for endometriosis in Austria and Germany: causes and possible consequences. *Hum Reprod.* 2012;27(12):3412-6.

8) Husby GK, et al. Diagnostic delay in women with pain and endometriosis. *Acta Obstet Gynecol Scand.* 2003;82(7):649-53.

9) Arruda MS, et al. Time elapsed from onset of symptoms to diagnosis of endometriosis in a cohort study of Brazilian women. *Hum Reprod.* 2003;18(4):756-9.

10) Moradi M, et al. Impact of endometriosis on women's lives: a qualitative study. *BMC Womens Health.* 2014;14:123.

11) Armour M, et al. Endometriosis and chronic pelvic pain have similar impact on women, but time to diagnosis is decreasing: an Australian survey. *Sci Rep.* 2020;10(1):16253.

12) Soliman AM, et al. Factors Associated with Time to Endometriosis Diagnosis in the United States. *J Womens Health (Larchmt).* 2017;26(7):788-97.

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

(表1) 各国の Time to diagnosis

国	論文	症状出現～確定診断(平均)	症状出現～初診	初診～診断
イタリア	(1)	11.4年		
ニュージーランド	(2)	8.7年	2.9年	5.8年
アラブ	(3)	11.61年	6.01年	6.96年
カナダ	(4)	5.4年	3.1年	2.3年
英国	(5)	8年		
オランダ	(6)	89ヵ月 (7.4年)		
オーストリア・ドイツ	(7)	10.4年	2.7年	7.7年
ノルウェー	(8)	6.7年(中央値 5.0年)		
ブラジル	(9)	中央値 7.0年		
オーストラリア	(10)	8.1年		

(表2) 診断時期による Time to diagnosis の違い

国	論文	最初の受診～診断の時期		
		2005年より前	2005～2012年	2012年以降(2013年～)
ニュージーランド	(2)	8.4±7.0年	5.3±4.0年	2.0±1.9年
オーストラリア	(11)	9.9±6.6年	4.8±2.6年	1.5±0.7年

# 令和5年度厚生労働科学研究費補助金 女性の健康の包括的支援政策研究事業

## 女性の健康課題に関する疫学研究 日本人女性の月経困難症・月経前症候群の罹患率と受診率と情報源に関する アンケート調査

研究補助事業者 甲賀かをり（千葉大学大学院医学研究院産婦人科）

研究分担者 石川 博士（千葉大学大学院医学研究院産婦人科）

研究分担者 浦田 陽子（国立研究開発法人国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター  
不妊診療科）

### 研究要旨

【目的】月経困難症や月経関連疾患の基礎資料を得るための調査に先立ち、予備的な調査によって傾向を知ることが目的とする。

【方法】マクロミル社を利用して、一般女性を対象としたWebアンケート調査を行った。対象は18-49歳の女性とした。

【結果】一次調査を40,000人の女性を対象にアンケート調査を行った。そのうち月経困難症あるいは月経前緊張症があり、病院を通院していない人(n=5356)を対象に二次調査を行った。約75%の女性が何らかの月経痛を自覚していた。月経痛のある女性のうち66%は医療機関受診したことがなかった。68%の女性が月経前緊張症を自覚しており、症状のある67%が医療機関受診をしたことがなかった。通院していない女性は受診に必要な支援として、経済的支援38%、病院についての情報提供23-26%、受診するための休暇制度18-19%、受診するための有給制度16-17%を挙げていた。

【結論】受診を促すには、経済的支援、具体的な病院についての情報提供、受診するための休暇制度や有給制度が有効だと考えられた。より詳細な分析は令和6年度も継続して行う予定である。

### A. 研究目的

月経困難症や、その原因となりさらに将来の生活習慣病とも関連する子宮内膜症・子宮筋腫等の女性特有の疾患については、疫学的・公衆衛生的エビデンスがなく、他の生活習慣病に関して行われているような指標・目標の策定・立案が行えず、「次期プラン」にも項目立てがない。

本疾患関連のあらたな健康課題の指標・目

標を策定するには、「月経関連疾患」の基礎資料（潜在患者数、受診率、有症状者における有病率、受診者の発症から受診までの期間、受診医療機関数、通院継続率等）を明らかにする必要がある。今年度本格的な調査の前に、傾向を知るために予備的なアンケート調査を行った。

### B. 研究方法

マクロミル社の一般女性を対象としたコホートに Web アンケートと調査を行い、一般女性の月経関連の症状の調査を行った。対象は、18～49 歳の女性とした。

(倫理面への配慮) 該当なし

## C. 研究結果

一次調査を 40,000 人の女性を対象にアンケート調査を行った。そのうち月経困難症あるいは月経前緊張症があり、病院を通院していない人(n=5356)を対象に二次調査を行った。

(1) 一次調査:年齢中央値 37 歳。

・月経困難症のため、仕事を休んだことがあるか

これまで仕事に就いたことがない 2434 人

(6.1%), 働いている(働いたことがある)が、生理痛のために休んだことがない 28865 人(72.2%)、生理痛のために仕事を休んだことがある 8701 人(21.8%)だった。

・直近 2 回の月経困難症について、痛みがないのは 27.7%、仕事(学業・家事)に若干の支障あり 50.8%、横になって休息したくなるほど仕事(学業・仕事)への支障を来す 18.2%、一日以上寝込み、仕事(学業・家事)ができない 3.3%であった。

・直近 2 回の月経困難症について、痛み止めは 1 日も使っていないのは 47.2%、痛み止めを 1 日使用したのは 22.8%、痛み止めを 2 日使用したのは 18.5%、痛み止めを 3 日以上使用したのは 11.5%であった。

・月経困難症あり(月経痛がある、あるいは、月経中に鎮痛剤を用いる) 30271 名を対象に月経困難症で困り始めたのは中央値 18 歳(SD 7.32 歳)であった。

・医療機関受診は 1 度もしたことない 66.7%、受診したことはあるが通院していない 20.8%、現在通院中(対面診療あり)である 10.9%、現在通院中(オンライン診療のみ)である 1.6%、であった。

・直近 2 回の月経前の不快な症状は、職場・家

族・友人との関係に差しさわりのあるか  
全くない 31.9%、少しある 45.7%、ある 13.3%、かなりある 9.2%であった。

・月経前の不快な症状について、これまでに医療機関受診したことあるか(症状のある人対象 27527 人を対象)

一度も受診したことない 67.5%、受診したことはあるが通院していない 19.6%、現在通院中(対面診療あり) 11.1%、現在通院中(オンライン診療のみ) 1.8%であった。

(2) 二次調査対象:年齢中央値 37 歳

・どのようなサービスがあれば受診すると思いますか

- 月経困難症に対して(月経困難症のある 4569 人が対象):経済的支援 38.7%、具体的な病院についての情報提供 23.6%、休暇制度 19.9%、有給制度 17.8%

- 月経前の不快な症状に対して(症状のある 4201 人が対象):経済的支援 38.6%、具体的な病院についての情報提供 26.1%、休暇制度 18.5%、有給制度 16.8%

・現在、自分で行っている対処方法のうち、最も力を入れているのも

- 月経困難症に対して(月経困難症のある 4569 人が対象):薬局で痛み止めやサプリメントや漢方を買った 49.2%、生活習慣を改善した 21.5%、がまんしている(何もしていない) 19.3%

- 月経前の不快な症状に対して(症状のある 4201 人が対象):薬局で痛み止めやサプリメントや漢方を買った 33.2%、生活習慣を改善した 30.2%、がまんしている(何もしていない) 25.6%

・現在の満足度

- 月経困難症に対して(月経困難症のある 4569 人):満足 8.3%、やや満足 49.3%、やや不満 34.9%、不満 7.5%



- 月経前の不快な症状に対して（症状のある4201人）：満足5.0%、やや満足40.9%、やや不満42.3%、不満11.8%

#### D. 考察

調査対象女性の約20%(40000人中8701人)は月経困難症のため仕事を休んだことがあり、約75%(40000人中30271人)が何らかの月経痛があった。月経痛のある女性のうち66%は医療機関受診したことがなく、月経痛があるが通院していない女性のうち49%が市販薬で対応していた。

月経前緊張症は68%の女性に自覚があり、症状のある67%が医療機関受診をしたことがなかった。症状はあるが通院していない女性の33%が市販薬で対応していた。

月経困難症と月経前緊張症のいずれの症状でも、通院していない女性が受診に必要な支援として、経済的支援38%、病院についての情報提供23-26%、受診するための休暇制度18-19%、受診するための有給制度16-17%を挙げていた。

#### E. 結論

女性の約75%に月経困難症があり、そのうち87.5%は通院しておらず、通院していない49%は市販薬を用いている。同様に68%に月

経前緊張症があり、そのうち87%が通院しておらず、通院していない33%が市販薬を用いている。すなわち、月経のある女性のうち、約32%が月経困難症に対して、約19%が月経前緊張症に対して市販薬を用いている。

受診を促すには、経済的支援、具体的な病院についての情報提供、受診するための休暇制度や有給制度が有効だと考えられた。

令和6年度に詳細な分析をおこない、さらなる知見をえる予定である。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

### Ⅲ.研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
金子 明夏 甲賀かをり	【最新のインフルエンザ診療-COVID-19を見据えて-】私の診療経験から 子宮内膜症に対する内分泌療法	臨牀と研究	100(12)	1514-1517	2023
石川 博士	子宮筋腫に対する選択的HIF-1阻害薬の抗腫瘍効果	日本女性医学学会雑誌	30(4)	593-595	2023
Dimitriadis, E., Rolnik, D. L., Zhou, W., Estrada-Gutierrez, G., Koga, K., Francisco, R. P. V., Whitehead, C., Hyett, J., da Silva Costa, F., Nicolaides, K., and Menkhorst	E. Author Correction: Pre-Eclampsia	Nat Rev Dis Primers.	9(1)	8	2023
Ishikawa, H., Kobayashi, T., Kaneko, M., Saito, Y., Shozu, M., and Koga, K.	Rising Stars: Role of Med12 Mutation in the Pathogenesis of Uterine Fibroids.	J Mol Endocrinol.	71(4)	e230039	2023
Ishikawa, H., Saito, Y., Koga, K., and Shozu, M.	Reproductive Outcomes Following Abdominal Repair for Cesarean Scar Defect in Women Who Desire Subsequent Pregnancies: A Single-Center Retrospective Study	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol.	291	141-147	2023

Koga, K., Fukui, M., Fujisawa, M., and Suzuki, Y.	Impact of Diagnosis and Treatment of Uterine Fibroids on Quality of Life and Labor Productivity: The Japanese Online Survey for Uterine Fibroids and Quality of Life (Joyful Survey).	J Obstet Gynaecol Res.	49(10)	2528-2537	2023
Silva Filho AL, Catherino WH, Estrade JP, Koga K, Singh S, Vannuccini S, Yang X, Lahav A, Caetano C, Calaf	The HOPE study: evaluating the impact of an online educational resource for health care providers on the patient-physician dynamic.	J.Women Health.	63(5)	370-382	2023
Omoto, A., Ishikawa, H., Inoue, M., Morimoto, S., Koga, K., and Shozu, M.	Metroplasty Increases the Take-Home Baby Rate by Reducing Pregnancy Loss without Changing the Chance of Conception in Women with Septate Uterus: A Retrospective, Single-Center, Observational Study.	BMC Pregnancy Childbirth.	23(1)	860	2023
Usui, H., Mikiya, A., Katayama, E., Nakamura, N., Sato, A., Matsui, H., Shozu, M., and Koga, K.	Total Human Chorionic Gonadotropin Is a More Suitable Diagnostic Marker of Gestational Trophoblastic Diseases Than the Free Beta-Subunit of Human Chorionic Gonadotropin.	Pract Lab Med.	37	E00343	2023
Sayama S, Iriyama T, Takeiri Y, Hashimoto A, Toshimitsu M, Ichinose M, Seyama T, Sonobe K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Koga K, Osuga Y	Clinical characteristics and outcomes of women with adenomyosis pain during pregnancy: a retrospective study.	J Perinat Med.	52(2)	186-191	2023

Ishikawa H, Yoshino O, Taniguchi F, Harada T, Momoeda M, Osuga Y, Hika ke T, Hattori Y, Hanawa M, Inaba Y, Hanaoka H, Koga K.	Efficacy and safety of a novel pain management device, AT-04, for endometriosis-related pain: study protocol for a phase II randomized controlled trial.	Reprod Health.	21(1)	12	2024
Kato K, Iriyama T, Hara K, Suzuki K, Hashimoto A, Sayama S, Ichinose M, Toshimitsu M, Seyama T, Sone K, Kumasa wa K, Nagamatsu T, Hirota Y, Koga K, Osuga Y	Increased risk of placenta previa and preterm birth in pregnant women with endometriosis/adenomyosis: A propensity-score matching analysis of a nationwide perinatal database in Japan.	J Obstet Gynaecol Res.	50(3)	351-357	2024
Ishikawa, S., Ishikawa, H., Satoh, M., Nagasawa, A., Suzuki, Y., Okayama, J., Nakada, E., Omoto, A., Shozu, M., and Koga, K.	Postpartum Acute Adrenal Insufficiency of Early-Onset Sheehan Syndrome: A Case Series Study in a Single Center.	J Obstet Gynaecol Res.	50	205-211	2024
Hosoya, S., Piedvache, A., Nakamura, A., Nasr, R., Hine, M., Itoi, S., Yokomizo, R., Umezawa, A., Hiraike, O., Koga, K., Osuga, Y., Narumi, S., and Morisaki, N.	Prolongation of the Menstrual Cycle after Receipt of the Primary Series and Booster Doses of mRNA Coronavirus Disease 2019 (Covid-19) Vaccination.	Obstet Gynecol.	143(2)	284-293	2024
長澤 亜希子, 甲賀 かをり	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 月経前症候群(PMS)	日本医事新報	5212	48-49	2024
齊藤 佳子, 甲賀 かをり	よく使う日常治療薬の正しい使い方 子宮内膜症治療薬の正しい使い方	レジデントノート	25(18)	3389-3393	2024

Takahashi N, Harada M, Kanatani M, <u>Wada-Hiraike O</u> , Hirota Y, <u>Osuga Y</u> .	The Association between Endometriosis and Obstructive Müllerian Anomalies.	Biomedicine	12(3)	651	2024 Mar 14
Sayama S, Iriyama T, Hashimoto A, Suzuki K, Ariyoshi Y, Yano E, Toshimitsu M, Ichinose M, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Hirota Y, <u>Osuga Y</u> .	Possible risks and benefits of adenomyomectomy on pregnancy outcomes: a retrospective analysis.	AJOG Glob Rep.	3(4)	100265	2023 Sep 1
Hiratsuka D, Omura E, Ishizawa C, Iida R, Fukui Y, Hiraoka T, Akaeda S, Matsuo M, Hara M, <u>Wada-Hiraike O</u> , <u>Osuga Y</u> , Hirota Y.	Pregnancy is associated with reduced progression of symptomatic adenomyosis: a retrospective pilot study.	BMC Pregnancy Childbirth.	23(1)	634	2023 Sep 4
Hiraoka T, <u>Osuga Y</u> , Hirota Y.	Current perspectives on endometrial receptivity: A comprehensive overview of etiology and treatment.	J Obstet Gynaecol Res.	49(10)	2397-2409	2023 Oct
<u>Urata Y</u> , Salehi R, Wyse BA, Jhangiri S, Librach CL, Tzeng CR, <u>Osuga Y</u> , Tsang B.	Neuropeptide Y directly reduced apoptosis of granulosa cells, and the expression of NPY and its receptors in PCOS subjects.	J Ovarian Res.	16(1)	182	2023 Aug 31
Hashimoto A, Iriyama T, Sayama S, Okamura A, Kato K, Fujii T, Kubota K, Ichinose M, Sonye K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Hirota Y, <u>Osuga Y</u> .	Differences in the incidence of obstetric complications depending on the extent and location of adenomyosis lesions.	J Matern Fetal Neonatal Med.	36(2)	2226789	2023 Dec

Mitake S, <u>Wada-Hiraike O</u> , Kasai H, Iwabara K, Nakamura A, Nasir R, Hine M, Matsuyama Y, Fujii T, <u>Osuga Y</u> .	Distribution of the follicular and luteal phase lengths and the age-dependent changes in Japanese women: A large population study.	Reprod Med Biol.	22(1)	e12516	2023 May 12
<u>Urata Y</u> , Harada M, Komiya S, Akaiyama I, Tsuchida C, Nakaoka Y, Fukuda A, Moriguchi Y, Kawahara T, Ishikawa Y, <u>Osuga Y</u> .	Lifestyle and fertility-specific quality of life affect reproductive outcomes in couples undergoing in vitro fertilization.	Front Endocrinol (Lausanne).		Online	2024
Kusamoto A, Harada M, Mineura A, Matsutomoto A, Oka K, Takahashi M, Sakaguchi N, Aizhary JMK, Koike H, Xu Z, Tanaka T, <u>Urata Y</u> , Kunitomi C, Takahashi N, <u>Wada-Hiraike O</u> , Hirota Y, <u>Osuga Y</u> .	Effects of the prenatal and postnatal nurturing environment on the phenotype and gut microbiota of mice with polycystic ovary syndrome induced by prenatal androgen exposure: a cross-fostering study.	Front Cell Dev Biol.		Online	2024
Xu Z, Takahashi N, Harada M, Kunitomi C, Kusamoto A, Koike H, Tanaka T, Sakaguchi N, <u>Urata Y</u> , <u>Wada-Hiraike O</u> , Hirota Y, <u>Osuga Y</u> .	The Role of Cellular Senescence in Cyclophosphamide-Induced Primary Ovarian Insufficiency.	Int J Mol Sci.		Online	2024

<p>Tose K, Takamura T, Isobe M, Hirano Y, Satoh Y, Kodama N, Yoshihara K, Maikusa N, Moriguchi Y, Noda T, Mishima R, Kawabata M, Noma S, Takakura S, Gondo M, Kakeda S, Takahashi M, Ide S, Adachi H, Hamatani S, Kamashita R, Sudo Y, Matsumoto K, Nakazato M, Numata N, Hamamoto Y, Shoji T, Muratsubaki T, Sugiyura M, Murai T, Fukudo S, Sekiguchi A</p>	<p>Systematic reduction of gray matter volume in anorexia nervosa, but relative enlargement with clinical symptoms in the prefrontal and posterior insular cortices: a multicenter neuroimaging study</p>	<p>Mol Psychiatry</p>	<p>doi: 10.1038/s41380-023-02378-4</p>		<p>2024 Jan 22</p>
<p>Sudo Y, Ota J, Takamura T, Kamashita R, Hamamoto Y, Shoji T, Muratsubaki T, Sugiyura M, Fukudo S, Kawabata M, Sunada M, Noda T, Tose K, Isobe M, Kodama N, Kakeda S, Takahashi M, Takakura S, Gondo M, Yoshihara K, Moriguchi Y, Shimizu E, Sekiguchi A, Hirano Y</p>	<p>Comprehensive elucidation of resting-state functional connectivity in anorexia nervosa by a multicenter cross-sectional study</p>	<p>Psychol Med.</p>	<p>doi: 10.1017/S0033291724000485</p>	<p>1-14</p>	<p>2024 Mar 19</p>

Ohsako N, Kimura H, Hashimoto T, Hosoda Y, Inaba Y, Iyoda M, Nakazato M	A pilot trial of an online guided self-help cognitive behavioral therapy program for bulimia nervosa and binge eating disorders in Japanese patients	Biopsychosoc Med.	doi: 10.1186/s13030-023-00294-1.	17(1):37	2023 Nov 10
Kurusu K, Nohara N, Inada S, Otani M, Noguchi H, Endo Y, Sato Y, Fukudo S, Nakazato M, Yamauchi T, Harada T, Inoue K, Hata T, Takakura S, Sudo N, Iida N, Mizuhara Y, Wada Y, Ando T, Yoshiuchi K	Economic costs for outpatient treatment of eating disorders in Japan	J Eat Disord.	doi: 10.1186/s40337-023-00864-2	11(1):136	2023 Aug 14
中里道子	モーブレイ神経性やせ症治療 (MANTRA) の実践に向けて. 摂食障害のスタンダードな治療のひろがりに向けて	認知療法研究	第16巻2号	p. 81-90	2023
須藤佑輔, 中里道子	モーブレイ式神経性やせ症治療 (MANTRA) の概説と日本での実装における課題	精神医学	Vol165, no. 9	1252-1260	2023



厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
—(国立保健医療科学院長) —

機関名 国立大学法人千葉大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 横手 幸太郎

次の職員の令和 5 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究院・教授  
(氏名・フリガナ) 甲賀 かをり・コウガ カオリ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年 3月 31日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 東京歯科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 一戸 達也

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 市川総合病院 産婦人科 准教授  
(氏名・フリガナ) 小川 真里子 オガワ マリコ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関： )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由： 文献的レビューのみのため )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容： )

- (留意事項)
- ・該当する□にチェックを入れること。
  - ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費補助金の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・届出研究員  
(氏名・フリガナ) 浦田 陽子・ウラタ ヨウコ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年5月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費補助金の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・教授  
(氏名・フリガナ) 大須賀 穰・オオスガ ユタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学  
所属研究機関長 職名 学長  
氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費補助金の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院・准教授  
(氏名・フリガナ) 平池 修・ヒライケ オサム

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立大学法人鳥取大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 中島 廣光

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業

2. 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・教授

(氏名・フリガナ) 谷口 文紀・タニグチ フミノリ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関： )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容： )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年 4 月 15日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立研究開発法人国立成育医療研究センター  
所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 五十嵐 隆

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 社会医学研究部 部長  
(氏名・フリガナ) 森崎 菜穂 (モリスキ ナホ)

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立成育医療研究センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

#### その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関： )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容： )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



令和6年 4 月 15日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立研究開発法人国立成育医療研究センター  
所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 五十嵐 隆

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 社会医学研究部 専門職  
(氏名・フリガナ) 石塚 一枝 (イシヅカ カズエ)

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立成育医療研究センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

#### その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関： )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容： )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年 4 月 15日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 国立研究開発法人国立成育医療研究センター  
所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 五十嵐 隆

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
- 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 社会医学研究部 研究員  
(氏名・フリガナ) 小林 しのぶ (コバヤシ シノブ)

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

#### その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関： )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容： )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
医薬基盤・健康・栄養研究所

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 中村 祐輔

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 栄養疫学・食育研究部・部長  
(氏名・フリガナ) 瀧本秀美 タキモトヒデミ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関： )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由： )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容： )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人大阪大学

所属研究機関長 職 名 大学院医学系研究科長

氏 名 熊ノ郷 淳

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学系研究科・特任准教授(常勤)

(氏名・フリガナ) 池原 賢代・イケハラ サトヨ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他(特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2024 年 3 月 22 日

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長)— 殿  
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 学校法人国際医療福祉大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 高木 邦格

次の職員の（令和）5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究（23FB1003）
3. 研究者名（所属部署・職名） 医学部精神医学 ・ 教授  
（氏名・フリガナ） 中里 道子 ・ ナカザト ミチコ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称： )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）なし

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

（留意事項） ・ 該当する□にチェックを入れること。  
・ 分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣  
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿  
—(国立保健医療科学院長) —

機関名 国立大学法人千葉大学

所属研究機関長 職 名 学長代行

氏 名 横手 幸太郎

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 女性の健康の包括的支援政策研究事業
2. 研究課題名 女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標の策定を推進するための研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究院・講師  
(氏名・フリガナ) 石川 博士・イシカワ ヒロシ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。